

令和3年度使用 中学校理科（理科）調査資料

発行者	調査内容
東京書籍	<p>＜理科の「問題解決の流れ」に沿った構成について＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○問題解決までの流れが一目でわかるよう、各ページ下部に示してある。 ○対話例や「理科のミカタ」をヒントに、問題解決に向けての考え方を整理できる。 △重要事項と既習事項が黒太字と下線でそれぞれ強調されているため、混乱しやすい。 <p>＜地域の子供たちの学びやすい観察・実験や資料について＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○課題発見から振り返りまでの流れがイラストで描かれており、流れがわかりやすい。 ○身近な生物の単元ではスケッチの数が一番多い。 ○課題に対して自分の言葉で結論を表現させるつくりで、章末に例文が紹介されている。 ○実験の方法が見開きで大きく書かれており、見やすい。 <p>＜ICTの活用など新しい内容の取り扱いについて＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○凸レンズがつくる像や柱状図のシミュレーションなどの作りが秀逸である。 △QRコードは目次のページだけにあり、デジタルコンテンツ一覧のページにリンクしているため、教科書上の学習ページからの移動時間が多くかかる。 <p>＜その他＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○巻末にペーパークラフトがついている。
大日本図書	<p>＜理科の「問題解決の流れ」に沿った構成について＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○問題解決までの流れがわかりやすい構成になっている。 ○実験・観察時の流れが大きく表示してあり、わかりやすい。 ○図や写真、表などが多く、イメージしやすい。 ○各学年で重視することを段階的に色分けしてあり、意識しやすい。 △思考・表現や話し合い活動の場面がわかりにくく、見落としやすい。 <p>＜地域の子供たちの学びやすい観察・実験や資料について＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○単元最初の「これまでに学習したこと」が写真も多く、想起しやすい。 ○生徒が考えた方法で実験を行えるよう工夫されている。 △光の屈折の実験で、課題と結果が同じページに配置されており、生徒の思考が広がらない。 <p>＜ICTの活用など新しい内容の取り扱いについて＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○実験器具の使い方などの動画が充実しており、自宅学習などには向いている。 △QRコードは目次のページだけにあり、デジタルコンテンツ一覧のページにリンクしているため、教科書上の学習ページからの移動時間が多くかかる。
学校図書	<p>＜理科の「問題解決の流れ」に沿った構成について＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○各章に目標が、1時間ごとに課題とまとめが明示してあり、章や時間の目標、めあてを意識しやすい。 ○実験・観察時の流れが大きく表示してあり、わかりやすい。 <p>＜地域の子供たちの学びやすい観察・実験や資料について＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○1年生の巻頭にある「理科のトリセツ」で、授業を受ける上でのコツが説明されている。 ○各単元に、身の回りにある現象に目を向けやすくなるよう「問題発見」のページがある。 ○単元ごとに「Can-Do List」という振り返りのページがあり、確実に定着させたい知識や技能が明示されている。 ○単元末の「学び続ける理科マスター」と「学びを日常に生かしたら」のコラムが、学習と身の回りの生活との橋渡しとなっている。

	<p>△身近な生物を紹介するページで個体数が一番少なく、図鑑としての活用が難しい。</p> <p>△実験操作が何ページにもわたって書かれている単元もある。</p> <p><ICTの活用など新しい内容の取り扱いについて></p> <p>○小単元の終末の「Can-Do List」にQRコードがついており、従来のコラムや基本問題などにリンクされている。</p> <p>△実験や観察などの映像コンテンツにはリンクされていない。</p>
教育出版	<p><理科の「問題解決の流れ」に沿った構成について></p> <p>○単元の最初に各章での「学んでいくこと」が掲載されており、見通しをもって学習を進めることができる。</p> <p>○重要語句は文字の色を変え、計算の公式は下地の色を変えて、わかりやすい。</p> <p>△実験における仮説や計画がないものもあり、実験によってばらつきがある。</p> <p><地域の子供たちの学びやすい観察・実験や資料について></p> <p>○重要語句への色づけがわかりやすい。</p> <p>○各学年の巻頭で、学習における探求の進め方について、5ページにわたって細かく説明されている。</p> <p>○実験操作が見開き1ページとなっているのがわかりやすい。</p> <p>△ページの端から端まで説明文が書かれており、眼球移動が多く必要である。</p> <p>△イラストで生徒同士の対話が描かれており、思考の見通しが立てやすいが、生徒が自分で考えるチャンスが少なくなっている。</p> <p><ICTの活用など新しい内容の取り扱いについて></p> <p>△QRコードは目次のページにあり、教科書の学習内容と関連した一般のコンテンツ（博物館や企業、個人が作成したホームページ）がまとめられたページにリンクしており、授業で扱う実験や観察そのものではない場合が多い。</p> <p><その他></p> <p>○巻末に「生物カード」「原子カード」「星座早見表」がついている。</p>
啓林館	<p><理科の「問題解決の流れ」に沿った構成について></p> <p>○各単元に1つ、主体的に課題を解決するための探Q実験が設定されていて、受け身の実験ばかりにならないように工夫されている。</p> <p>○思考・表現や、話し合い活動を促す場面が多く、主体的、対話的で深い学びにつながりやすい。</p> <p>○実験・観察前、実験・観察後でマークの色等を分け、見やすい。</p> <p>△写真の位置が見つらいところにある場合がある。</p> <p><地域の子供たちの学びやすい観察・実験や資料について></p> <p>○巻末に「探Qシート」というレポート用紙があり、仮説や計画を立てやすくなっている。</p> <p>○生徒たちが考えて仮説を立て、実験を行うことができるような組み立てになっている。</p> <p>○課題発見から始まり、考察、振り返りまでの単元の流れがわかりやすく図示されている。</p> <p>○単元末にある「みんなで探Qクラブ」が、学習内容と実生活の橋渡しとなっている。</p> <p><ICTの活用など新しい内容の取り扱いについて></p> <p>○QRコードは各単元のはじめについており、関連するコンテンツに直結している。</p> <p>○コンテンツ数が多く、オリジナルの動画だけでなくNHKが所有するコンテンツへのリンクなど信頼性が高いものが多い。</p>